

令和2年度 第2学年 シラバス

SYLLABUS



附

三重大学教育学部附属中学校

もくじ

Ⅰ シラバスについて

シラバスについて	1
三重大大学の目標と附属中学校の研究について	2
本校の教育課程授業時数一覧表等	3

2 学習の進め方

国語	4
社会	5
数学	6
理科	7
音楽	8
美術	9
保健体育	10
技術・家庭	11
英語	13

3 各教科の内容

国語	14
社会	16
数学	18
理科	20
音楽	22
美術	24
保健体育	26
技術・家庭	28
英語	32

3 通信表について	34
-----------	----

シラバスについて

シラバスとは、各教科の学習内容や学習方法、評価の仕方などを記した総合的な学習計画のことです。本シラバスでは、本校の教育目標－豊かな創造性とたくましい実践力を持ち、生活をきりひらく生徒の育成－を実現するために、各教科の具体的な指導内容・方法、評価の方法を示しています。

まず、教科ごとの学習の仕方を、[授業中]、[家庭学習]、[テスト勉強]に分けて、それぞれ具体的に示しました。次に、年間の「学習のねらい」、「評価の観点と評価の方法」に加えて、年間の「指導計画」を示しています。そして、指導計画の中で「教材名および時間数」、および「つきたい力」について詳細に説明しています。

生徒の皆さん、ここには１年間の学習内容が詳しく書かれています。ぜひ、毎日の授業や自宅での学習において、計画的・主体的に学習に取り組むことができるように、１年間の学習の「道しるべ」として積極的に本シラバスを利用してください。

また、保護者および地域の皆様におかれましては、本校の具体的な学習内容等をご確認いただき、お気づきの点などがありましたらお知らせいただければ幸いです。本校の教育目標に沿ったより良い教育を実現できるように、ご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和２年４月

三重大学教育学部附属中学校長

新田 貴士

三重大大学の基本的な目標

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。

～ 人と自然の調和・共生の中で ～

・「4つの力」

生きる力 主体的学習力 実践力 問題解決力 心身の健康 協調性

感じる力 豊かな感性・気づき 倫理性 強いモチベーション 学ぶ喜び

考える力 課題探究力 科学的推論力 クリティカル・シンキング力

コミュニケーション力 国語力 情報受発信力 発表・討論・対話力

- ・ 課題探究心, 問題解決能力, 研究能力の育成
- ・ 学際的・独創的・総合的視野をもち, 国際的に活躍できる人材の育成

附属中学校 第30次 研究テーマ
「社会の変化に対応できる生徒の育成」

～SDGsを核に資質・能力が伸びる取り組みを目指して～

育成したい資質・能力

- ・「なぜそうなのか」を考える力
- ・「本当にこれでいいのか」と考える力
- ・新しいアイデアを生み出す力
- ・問題に気づく力
- ・問題を解決する力
- ・振り返り、次に生かす力

各教科等

各教科等の内容とSTEPを結びつけるための取組として「ESDカレンダー」という計画表を作成し、どの時期にどの教科がどの概念にかかわる授業をしているかを明確にしています。そうすることで教科等横断的な視点で授業を計画でき、教科で身につけるべき力を伸ばしながら、資質・能力を育成できると考えています。

[illegible]

総合的な学習の時間

「STEP」というSDGsを核とした探究的な学習に取り組んでいます。STEPという名称には、次のふたつの意味が込められています。

①Save The Earth Projects(地球を救うプロジェクト)の意。②探究学習の過程をHop(気付き,発想する)Step(計画を立てる)Jump(実行,行動する)ととらえ,Jumpに向けて,自分たちに何ができるかを考える授業にしたいという思い。

〈STEPの取組〉

- ・学年をこえた班編成

学年にこだわらず、問題意識の持ち方や研究の方向性によって班を編成し、協力して活動を進める。

- ・個人探究活動
テーマに沿って個人で考えたり、調査したりして問題意識をもつ。

- ## * 10 STEP

専門家から指導を受ける。

- ・活動報告会

保護者や専門家、教員に向けて成果を発表する。

本校の教育課程授業時数一覧表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道徳	学活	総合的な学習の時間	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015
	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

※上段：年間時数，下段：週時数

定期テスト実施計画表

		実施時期	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語
1年	1学期中間	—									
	1学期期末	7/6,7,8	○	○	○	○	○		○		○
	2学期中間	10/19,20	○	○	○	○				○	○
	2学期期末	11/18,19,20	○	○	○	○	○		○		○
	学年末	2/17,18,19	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2年	1学期中間	—									
	1学期期末	7/6,7,8	○	○	○	○	○		○		○
	2学期中間	10/19,20	○	○	○	○				○	○
	2学期期末	11/18,19,20	○	○	○	○	○	○	○		○
	学年末	2/17,18,19	○	○	○	○	○		○	○	○
3年	1学期中間	—									
	1学期期末	7/6,7,8	○	○	○	○	○		○	○	○
	2学期中間	10/19,20	○	○	○	○		○			○
	2学期期末	11/18,19,20	○	○	○	○	○		○	○	○
	学年末	1/12,13	○	○	○	○					○

※令和2年6月段階での予定です。

国語科 学習の仕方

【授業中】

- ◆文節や意味上の切れ目を意識しながら、適切な間と早さで本文を音読する。
- ◆色ペンなどを使い、わかりやすくまとめられたノートを作る。
- ◆板書されたものをノートに書くだけでなく、先生の話や仲間の意見からメモをとる。
- ◆仲間と意見を聴きあい、根拠や理由付けを捉えたり、自分の考えと同じ点や違う点を捉えたりして考えを深める。
- ◆問題点を明確にし、根拠と理由付けを示しながら論理的に意見を述べる。
- ◆積極的に発表するなど、授業に積極的に取り組む。

【家庭学習】

- ◆まず、授業中の取り組みを大切にしよう。その上で家庭学習による学力アップを目指そう。
授業中に取ったメモを基に、わかったことや考えたことをまとめ直し、再構成しよう。
多読は国語力を高めるので、普段から様々な種類の文章を読むようにしよう。
- ◆自主学ノートの活用
 - ①漢字など基礎的な知識を繰り返し練習して習得する（反復）。
 - ②授業で学習した内容をまとめるなどして整理する（定着）。
 - ③他教科とのかかわりや興味を持った内容を調べるなどして深める（探求）。
- ◆漢字
 - ①読みの確認をする。
 - ②画数や書き順、部首などを確認しながら、指書きをしたり実際に書いたりして練習する。
 - ③熟語の意味や実際の文章の中での使い方などを確認し、使いこなせるようにする。
- ◆説明文や物語文
 - ①教科書本文をすらすら読めるように音読練習する。
 - ②新出漢字を覚え、意味の分からない語の意味を調べる。
 - ③文章の内容をとらえるために、主語・述語のつながりや文どうしの接続関係を考えながら読む。

※説明文
普段から、説明的文章が書かれた本や、新聞などを読むようにする。その際、段落ごとの働きや、構成（問題提示・仮説・具体例・意見・結論・主張）を意識する。段落ごとのキーセンテンス（要点の文）に線をひいてみるのもよい。また、主張・根拠・理由付けを捉えたり、筆者が何をどのように認識しているかにも着目したりするとよい。少し頑張って読める難しさのものに取り組んでみよう。

※物語文
普段から文学的文章（小説など）を読むようにする。その際、人物の設定、主役がこだわっていること、主役の心理の変化に注目して読むようにする。また、語り手がその作品世界をどのように語っているかにも着目するとよい。自分が読んでおもしろいものを読めばよいが、夏目漱石・森鷗外・芥川龍之介・川端康成といった、文学史上に残る作家の本に挑戦するのもよい。
- ◆詩・短歌・俳句などの韻文
 - ①本文を暗唱してしまうくらいくり返し読む。（現代語訳も読むとよい）
 - ②比喩や擬人法などの表現技法のはたらきを覚え、どこに使われているかわかるようにする。
 - ③自分なりに主題をとらえ、鑑賞文や感想を書いてみる。
- ◆古典・漢文
 - ①本文を暗唱してしまうくらいくり返し読む。（現代語訳も読むとよい）
 - ②歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せるようにする。
 - ③授業中に説明された古典重要語を覚える。
 - ④作品名、作者名、成立した時代を覚える。
 - ⑤係り結びなどの、授業中に説明された言語事項を覚える。
 - ⑦起承転結・押韻・律詩と絶句の違いなど、構成に関する事柄がわかるようにする。
 - ⑧自分なりに主題をとらえ、鑑賞文や感想を書いてみる。
- ◆文法・語句
 - ①文法の問題集を使い、授業で習ったことを中心にくり返し問題を解く。
 - ②習った語句は何度も声に出して書き、覚える。
 - ③テスト前に復習して、定着を図る。

【テスト勉強】

- ◆まず授業中に理解しようと努力することが何より大切です。
- ◆教科書本文を読み直す。
- ◆ワークブックの問題を解き直す。
- ◆漢字・語句・文法・表現技法といった言語事項を覚える。
- ◆普段から本や新聞を読み、自分の手で文章を書き、分からない言葉はすぐに調べるといった、国語に対する態度がそのまま国語力の向上につながります。すぐに国語力はつきません。日々の取り組みを大切にしてください。

【授業中】**授業の受け方**

- ・授業前…チャイム着席を守る。忘れ物をしない。服装・身なりを整える。
(公民的資質としてルールを守ることが社会科では学ぶので、その実践として大切にしていきます。)
- ・授業中…自分の考えを発言する。先生の話・仲間の発言をしっかりと聞き、新しく発見したことはノートに書く。私語をしない。

ノートのとり方

- ・板書されたことを写すだけでなく、先生が説明したポイントや大切だと思う言葉がメモしてあるとよい。
- ・資料から気づいたことや分かったこと、話し合いの課題に対して考えたことをしっかりと書く。

発表・発言

- ・資料や既習事実、自らの体験などの根拠をもとに、理由もふまえながらの発言を心がける。
- ・仲間の意見をふまえた発言を心がける。「〇〇さんに似ていますが…」、「〇〇さんに付け加えて…」
「〇〇さんに反対で…」など
- ・仲間の発言に対して簡単に納得をせず、疑問が解消するまでどんどん質問をする。
- ・考えや意見は、先生に対してではなく、クラスの仲間に対して伝わるように、大きな声で発言する。

その他

- ・地図帳や資料集を活用する。授業中に国名や地名が出てきたら、地図帳で場所を確認する。また、仲間の意見で疑問に思ったり、自分の考えをまとめたりするとき、資料集で根拠を探すなど確認する。

【家庭学習】**予習**

- ・次の学習に関連する資料を集めたり、事柄を調べたりしておく。

復習

- ・宿題を忘れずにする。
- ・授業ノートを中心に、新しく学習した語句や用語などの意味を調べてノートのスペースに書いたり、授業中に話しあった内容について自分の考えや感想を書いたりする。また、関連する出来事や資料が新聞や資料集などに載っていたら、切り取ったりコピーしたりして、ノートに貼っておくとよい。
- ・問題集やワークなどの問題を解く。
- ・復習をして、分からないところ、疑問に思うところは、先生に聞くようにする。

興味を持つために

- ・地理的内容の番組、歴史的内容の番組、ニュース・新聞などを見るようにする。
- ・学習した内容をもっと深く知りたい人は、図書室の本を読んだり、ネットのサイトを調べたりする。

【テスト勉強】

- ・ノートを中心に、教科書や資料集を用いて、語句を確認し、授業内容をおおまかに理解する。
- ・社会的語句などを教科書やノートを見て確認するだけでなく、何回も言いながら書いて確認する。
- ・社会的用語や出来事を覚えるだけでなく、その用語や出来事の意味や背景を理解する。
- ・おおまかに理解した内容を、再びノートにまとめてみる。
- ・授業中に確認した資料の見方、作図の仕方など確認をする。など
- ・図や表を用いながら、政治や経済、社会の仕組みをまとめてみる。など

【授業中】

- ① すでに学んだことをもとにして、新しい性質や考え方をみずから発見できるように考える習慣をつけましょう。
- ② これまでに身につけた知識や考え方を利用して、授業の課題を考える習慣をつけましょう。
- ③ ほかの人の意見を聞くときは、自分の意見と比べながらしっかりと聞こう。
- ④ 自分の意見は、大きな声で、具体的にわかりやすく伝えよう。
- ⑤ 疑問に思ったことや付け足したいことがあれば、発言をしよう。
- ⑥ ノートには、黒板に書かれたことを写すだけでなく、先生の説明や仲間の発言、自分の考えを書き加えるなどしてくふうして作りましょう。
- ⑦ 考えをまとめたり、発表したりするときには、たずねられていることと答えがあうように心がけよう。数学では、理由をたずねる、方法をたずねる、事実をたずねるの3つに大別されます。

【家庭学習】

- ① 授業で学習した内容に関連する問題でしっかりと練習することが大切です。計画的に問題集を使って力をつけましょう。
- ② わからない問題や間違えた問題は解答や教科書を参考に理解できるように努めましょう。
- ③ 解答を写した問題は、必ずもう一度解き直し、自分の力で解けるようにしましょう。
- ④ 提出する問題集の問題が難しくなかなか仕上がらない時は、先生のところへ早めに相談しに行きましょう。
- ⑤ 問題集を解く力に余裕のある人は難しい問題（集）に挑戦し、力をつけていきましょう。
- ⑥ 納得できるまで考えることができる家庭学習の時間を有効に活用しましょう。

【テスト勉強】

- ① 授業で学習した内容をよく復習しましょう。
- ② 授業の進度に合わせた日頃の家庭学習が大切です。計画的に問題集を解き進めておきましょう。
- ③ 定期テストや実力テストの範囲を目安に、学習内容の理解が不確かになっているところはないか点検し補充するようにしましょう。

【授業中】**授業の受け方**

- ・自然事象に興味をもって授業に参加しましょう。
- ・友だちの発表を聞きもらさないようにし、自分の考えとの違いや共通点を見つけよう。
- ・発表するときや、班で活動・相談するときは自分の考えを積極的に相手にわかりやすく伝えるようにしよう。
- ・先生の指示をよく聞き、安全に実験・観察できるようにしよう。

ノートのとおり方

- ・板書を写すだけでなく、先生が話した内容等で補足しながらわかりやすくまとめよう。

実験・観察

- ・説明をしっかりと聞き、ペアや班全員で取りくみ、見ているだけの人がいないようにしよう。
- ・積極的に参加し、安全には十分注意しよう。
- ・手順どおりに作業し、結果を出すだけでなく、結果からしっかりと考察しよう。
- ・方法や結果、自分の考察をまとめておきましょう。

【家庭学習】**復習**

- ・学習した日のうちに問題を解き、わからないところや間違ったところをしっかりと確認しよう。
 - ・復習をしていてわからないことや疑問に思うことは、先生に聞き、解決しておきましょう。
 - ・実験や観察の結果をまとめよう。
 - ・授業のノートや教科書をもとに、新しく学習した用語をきちんと理解しよう。
 - ・学習した内容と身近な科学事象との関わりを調べ、ノートにまとめよう。
 - ・計算問題や作図は繰り返し解きましょう。
 - ・一度解いた問題も繰り返し解き、知識を定着させよう。
- (間違ったところは、何が間違っていたのかをきちんと確認しておきましょう。)

興味をもつために

- ・不思議に思う身近な科学事象についてどんどん調べていきましょう。
- ・学習したことが身のまわりのどんなところでおこっているのか、利用されているのか調べてみよう。

【テスト勉強】

- ・ノート、教科書や資料集を用いて、語句を確認しよう。また、その語句を説明できるようにしておきましょう。
- ・ワークやプリントの問題を繰り返し解きましょう。特に一度間違った問題は重点的に解くとよいでしょう。
- ・実験や観察の手順や器具の使い方を確認しよう。
- ・実験や観察の結果から導き出せる法則や定理を文章で説明できるようにしておきましょう。
- ・提出物は計画的に進めておきましょう。

音楽科 学習の仕方

【授業中】

- ①授業前に準備物（教科書、資料集、楽器、ファイル）を用意し、開始・終了は、挨拶をしっかりする。
- ②授業準備物を忘れない。
- ③授業中は集中して、友達の発言や指導者の話をしっかり聞くとともに、音楽（音）に対して感受する気持ちを切らさない。必要であれば、楽譜に書き込み、メモを取ることを心掛ける。私語はしない。
- ④提出プリントは、理解したことと感じたことを整理し、音楽と自分との関わり方に注視しながら書く。提出する時は、十分見直し、丁寧な文字を書くことを心掛ける。
- ⑤音楽表現は、試行錯誤しながら創意工夫を凝らし、技術的な向上と表現したい思いを高めていく。グループや全体での表現に意欲的に取り組む。
- ⑥鑑賞では、作者の意図や作品の良さや特徴を感じ聴き取りながら、新たな発見の楽しさに出会う。仲間とのコミュニケーションも含め、仲間の考えを積極的にとり入れ、知識や教養をのぼす。

【家庭学習】

- ①親しむ・・・好きな音楽はもちろんのこと、授業で出会った曲を歌ったり、演奏者を変えた演奏を聴き比べたりなどをして音楽に親しもう。
- ②興味をもつ・・・調べ学習を通して、興味を広げてみよう。色んな視点を知ること、楽曲や音楽文化に迫ってみよう。
- ③根気強く取り組む・・・歌や楽器の演奏は練習が要ります。すぐに上手にならないのは当たり前。粘り強くやれる体験を積み重ねよう。
- ④感性を磨く・・・美術・本・自然・人など音楽だけではない美しいものに触れて、感じる心を自分自身で育てていこう。

【テスト勉強】

- ①音楽の基礎的な知識や楽語（楽典）は、読譜の上で必要です。様々な楽曲を通して習ったことは既習事項として積み重ねていき応用できる力をつける。新曲に出会ったら、何拍子・何調・音の高さや長さを丁寧に読譜する力をつけていく。
- ②リズムや音を正しく読み、記譜できる力をつける。
- ③音楽のしくみや構成を知り、そのことで表現にどのような効果があるのかを知る。
- ④ハ長調をはじめ、シャープ1個程度、フラット1個程度の調の階名が書けるようにする。
- ⑤鑑賞曲を通して、楽曲について必要な音楽の要素を学ぶと共に、作曲者の意図や楽曲のもつ性格や特徴に触れて感じた思いを表現できる。
- ⑥器楽で学んだ楽器は、楽器の構造や運指や調弦、使用する部位、演奏の仕方などを覚える。
- ⑦実技については、繰り返し練習をし、息の流れを感じて表現できるようにする。また、暗譜できるまで取り組み、創意工夫を凝らし曲に合った表現ができるようにする。根気強く練習する。
- ⑧グループテストの場合は、自分だけの表現にとどまらず、仲間の音楽も聴いて、アンサンブルができる状態にする。

※音楽の評価は、授業でどのように表現の創意工夫をして取り組んだか、技能の向上に努めたか、また意欲的に仲間と協力して鑑賞したかが大切であると考えます。

また、提出物としてワークシートがあります。これは、日頃の授業の課題を含めた、自己を見つめ直す大切な用紙で、評価と密接に結びつきます。

※学期に一度、定期テストを行います（3年生は3学期は行わない）ペーパーの知識理解だけが優れていても音楽表現の学力が高いとは判断できない教科であると考えます。

※知識・理解のための教科ではなく、授業のなかで音楽表現を考え、美しい音楽が奏でられる学力をつけていくことを目指します。

美術科 学習の仕方

【授業中】

①準備をする。→ ②課題を知り、制作する。→ ③整理をして後片付けをする。
学習上の注意

- ・次の学習内容を把握し、事前に必要な準備物を用意して忘れ物をしないようにする。
- ・その日の課題をつかみ、集中して取り組む。
- ・今日の制作を振り返り後片付けと清掃をする。
- ・作品やワークシートは最後まであきらめずに、完成させる。
- ・様々なことに興味や関心を持ち、それらのことを基にして制作に挑戦する意欲を持つ。
また、持続させる。

【家庭学習】☆家庭学習の仕方、日頃取り組んでほしいことなど。

①身の回りにあるものに関心を持つことから始めよう。(観察しよう。)

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、
体感したりすることから始めよう。(体験すること、経験したこと大切にする。)

②感性を磨くこと。

美しい夕焼けや道端の名もなき花の美しさに心を止めることのできる心のゆとりを持とう。

美しものを美しいと感じられるということを大切にしよう。

頭の中に浮かんだアイデアを素直に感じ取り、イメージを大切にしよう。

③自然・芸術・美術に親しもう。(鑑賞しよう。)

自然・美術・芸術に関心を持ち、美しい花や景色、屋外彫刻や建築に関心を持ち、美術館、博物
館、歴史館等へ足を運び、本物の芸術にふれる機会を作ろう。

④メモやスケッチをしよう。(メモ用紙、スケッチ帳を持とう。)記録を残そう。頭に浮かんだ発想
をメモしたり、スケッチに残したり、美しい風景や花をスケッチする習慣を作ろう。

⑤制作してみよう。

趣味の中に、絵を描いたり、彫刻を作ったり、デザインやイラストを描くことによって、自己表
現にチャレンジしていこう。

⑥調べてみよう。(深める。)

わからないこと、興味を持ったこと、関心のあること、もっと知りたいことについて、とことん
調べてみよう。

⑦根気強く続けよう。

どんなことでも、やり始めたら最後まで完成させよう。「継続は、力なり」です。力をつけるには、
何よりも努力を続けていくことです。

年に一度テストを行います。

【授業中】

【体育分野】

- 授業への実質的参加を第一に考えましょう。
 - ・健康管理に細心の注意をし、欠課、欠席、見学をしなくてもよいようにしよう。
(見学の場合も原則として体操服を着用します)
- 安全への配慮をしましょう。
 - ・指定された体操服、体育館シューズを正しく身につけよう(爪も短くしておく)。
 - ・準備、片づけなど場の安全を確認してから行動しよう。
- 課題意識をしっかりと持ちましょう。
 - ・どうしたらうまく表現できるのか意識して取り組もう。
 - ・教えあう仲間を大切にし、互いに学びあう関係を築こう。
 - ・個人カードを活用し、学びの振り返りをしよう。

【保健分野】

- 課題意識をしっかりと持ちましょう。
 - ・健康を巡る諸問題を学びます。プリントまたはファイルを活用し、学んだ内容を整理しておこう。
 - ・ともに考える仲間を大切にし、互いに学びあう関係を築こう。

【家庭学習】

- 健康管理が問われます。健康な状態で授業に臨めるように体調を整えましょう。
 - ・手洗い、うがいの励行、十分な睡眠、適度な運動、必要な栄養摂取など、健康を維持する行動を心がけよう。また、保健分野で学んだことで実践できるものは進めていこう。
- スポーツ事象に関心を持ちましょう。
 - ・“観る”たのしみ方も学びのひとつです。様々な形態で高度化されたスポーツがメディアから流れてきます。ゲームの中で何が行われているのか興味を持って観ていきましょう。
- 人々の生活に関心を持ちましょう。
 - ・様々な生活環境・基盤・背景のもとで人は暮らしています。その要因に関心を持ち、暮らしとの関わりを考えてみましょう。

【テスト勉強】

- 授業で学んだことが出題の範囲となります。体育分野については、からだで得た感覚を整理する、また副読本など実技資料集でからだの動きやレギュレーション(規制・規則)を確認する。保健分野については、授業で使用したプリントや教科書の内容、領域によっては実習の手順を確認する。

【授業中】

- 授業を臨むにあたり，準備物を用意しましょう。
- 作業をする時は服装を整えましょう。技術室（木工室・金工室）での授業の時は，安全面や衛生面のことを考え，作業着（体操服）を準備しましょう。
- 授業中に話したことはしっかり聴き，必要に応じてノートに書き込んでおきましょう。さらに日常生活（学校生活・家庭生活）に活かせるようにしましょう。
- 製作については，個人製作では説明を聞いた後，安全を考慮して丁寧に取り組みましょう。
グループ製作では，他の班員に任せるのではなく，積極的に取り組みましょう。
施設，道具を使用する場合，火気，用具，道具の扱いに注意し，安全で事故やケガをしないように心がけましょう。

【家庭学習】

- 学習した内容で分からない部分は復習しておきましょう。
- 栽培の知識や実践した経験，ものづくりにおける道具の安全な使い方など実生活で活かせるものは実践していきましょう。

【テスト勉強】

- 授業ノート・プリントを中心に復習しましょう。
- 授業で話したことを教科書やノートを見ながら思い出しておきましょう。
- 授業中に行った。作図や作業の手順を復習しておきましょう
- 授業で使用した機械や道具の名前，使い方を確認しておきましょう。
- テスト1週間前に，テスト範囲とポイントが発表されるので，ポイントをしっかりと読んで，テスト勉強に取り組みましょう。

【授業中】

- 授業に臨むにあたり、準備物を整えましょう。
 - ・教科書、資料集、ファイルの準備に加え、各種実習を行う際には、次の準備物を整えましょう。
 - 調理実習：エプロン・マスク・三角巾・布巾
 - 被服実習：裁縫道具
 - *実習で用いる材料等は、基本的に学校で用意します。
- 学習したことを、日常生活に生かす意識をもちましょう。
 - ・授業を通してわかったこと・できるようになったことを、日常生活につなげることが大切です。
- 課題意識をもって、学習に臨みましょう。
 - ・生活をよりよくするための課題を見出すこと、またその課題解決のためにどう取り組めばよいかという意識をもって、授業に臨みましょう。
- 仲間と学びあう関係を大切にしましょう。
 - ・仲間は自分が気づけなかった新しい考え方に気づかせてくれる大切な存在です。仲間と学びあう関係を大切にしましょう。
 - ・自分の考えを確かなものにするために、それをよりの確に仲間に伝えるために、また仲間の考えをしっかりと受け取るために、話す・聴く・書く活動の充実に努めましょう。

【家庭学習】

- 学習したことを、実践してみましょう。
 - ・実習を通して学んだことを実践してみましょう。そこで新たに気づいたことや発見したことがあれば、ぜひ聞かせてください。仲間とともに共有し、次の学習につなげます。
- さまざまな人々との関わりを大切にしましょう。
 - ・家族をはじめとする自分にとって身近な人々だけでなく、自分とは異なる世代の人々等との出会いも大切にしましょう。「全ての人々にとってのよりよい暮らし」の実現に向けて取り組む上で、仲間同様自分の学びを深めてくれる貴重な存在です。

【テスト勉強】

- 定期テスト：教科書の内容・授業で用いたプリントが中心となります。
- 実技テスト：調理及び被服の基礎的な技能をはかるものです。練習の時間を設けた上で実施します。

英語科 学習の仕方

【授業中】

- ①準備物を整え、課題を済ませてから、授業に臨みましょう。
- ②発音や音読ではしっかり口を動かし、発声しましょう。
- ③先生の説明や仲間の発表・発言を聴き合い考え深めましょう。
- ④コミュニケーション活動（ペア、グループ）や課題（英作文、練習問題など）に積極的に取り組みましょう。
- ⑤先生や仲間の質問に積極的に受け答えしましょう。また自分から英語で質問してみましょう。
- ⑥わからないことがあったときは、解決方法を仲間や先生に聞きましょう。
- ⑦ノートは、教科書の本文や単語を写すのではなく、先生の話や仲間の発言、自分の考えやオリジナルの英文などをわかりやすくまとめましょう。
- ⑧課題やワークなど返却されたら、自分の間違えた箇所などを必ず見直しましょう。
- ⑨プリントを整理してファイルに綴じ、復習や提出ができるようにしましょう。

【家庭学習】

《必修編》

- ①学習した日に復習をしましょう。（単語・文法・音読・練習問題など）
- ②定着させるために、語句や本文を何度も繰り返して音読したり、書いたりしましょう。
- ③ワークや調べ学習、スピーチなどの作成・練習等、課題に取り組みましょう。
- ④語句調べ・語句練習・本文写しを行いましょう。

《ステップアップ編》

- ①ラジオやテレビの語学講座に挑戦しましょう。
- ②映画や音楽など英語を聞き、セリフや歌詞を覚えましょう。
（英語の字幕を見ながら映画を観ることも効果的です。）
- ③日記を書いてみましょう。（週に1回や長期休暇など）

【テスト勉強】

- ①語句や英文を英語⇄日本語にできるよう覚えるまで音読したり、書いたりしましょう。
⇒中学校の教科書に載っている英文は基本中の基本です。基本が身についてこそ表現力や応用力がつくものです。すべての英文を暗記するつもりで取り組みましょう。
- ②授業で使ったプリントも復習しましょう。文法や語句についての説明や問題に取り組むコツが載っています。
- ③ワークや練習問題のプリントは、次のやり方で取り組んでいきましょう。
 1. 自力でやってみる。
 2. わからないところは、教科書やノートを参考にしてやってみる。
 3. ワークやプリントの解説を見ながらやってみる。
 4. 答え合わせをし、間違えたところについては解説を読み、わからないところは仲間や先生に質問する。
- ④ワークや練習問題のプリントは何度も繰り返し取り組みましょう。

第2学年国語科

1 学習のねらい	・話したり聴いたりして考えをまとめようとする事、文章を書いて考えをまとめようとする事、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする事に意欲をもって取り組む。 ・目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて論理的に考え、構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、互いの立場や考えを尊重しながら結論を導くために話し合う能力を身につける。 ・目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成や展開に工夫しながら的確に書く能力を身につける。 ・文章を批判的に読みながら、論理の展開や表現の仕方をとらえてものの見方や考え方をとらえ、自分の意見をもつ力を身につける。 ・身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①国語に対する関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えをまとめ、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする。	授業態度（自己評価を含む）、発言内容など 提出物（自主学ノートの活用の仕方、ワークシートの内容、作文・ノートなど） 定期テスト・小テスト
	②話す力・聞く力	目的や場面に応じ、構成を工夫して話したり、意図を考えながら聞いたり、話題や方向をとらえて話し合ったりする。	発言の内容、スピーチの仕方 聞き取りテスト・定期テスト
	③書く力	目的や意図に応じ、構成を考え、自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして文章を書く。	ワークシート、ノート、作文など 定期テスト
	④読む力	文章の種類を踏まえて構成や論理の展開、表現の仕方などをとらえ、ものの見方や考え方について考え評価し、自分の意見をもつ。	感想、ノート、ワークシートなど 定期テスト
	⑤言語に対する知識・理解・技能	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やさまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を楷書で書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書く。	発言、作文、書写など 小テスト・定期テスト

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	名付けられた葉	構成や展開、描写の特徴を読み取ることができる。	7	人間は他の星に住むことができるのか	文章の構成について、根拠を明確にして、自分の考えをまとめることができる。
	ことば発見1	類義語・対義語・多義語を使うことができる		用言の活用	言葉の特徴やさまり、漢字についての理解を深めることができる。
	平家物語	描かれた場面を想像し、登場人物の生き方について考えることができる。 語り手に着目し、その価値観を捉える。		推論と対話で考えを広げる 主張文	自分の立場や考えとともに、それを支える事実や事柄、理由づけを明らかにして、文章の構成を工夫する。
	資料や機器を効果的に活用する プレゼンテーション	話し手の意図や話の内容をわかりやすく伝えるために、資料や機器を効果的に活用して話す。	8	小さな手袋	文体や描写に気をつけて読み、その表現効果について考えることができる。
	漢字のしくみ1	熟語の構成・熟字訓を使うことができる	9	枕草子	古典に表れたものの見方や考え方にふれ、語り手がどのような意図をもって表現しているかを捉える。
	徒然草	古典に表れたものの見方や考え方にふれ、語り手がどのような意図をもって表現しているかを捉える。		漢字のしくみ2	熟語の読みを日常で使うことができる
	読みたくなるしくみを工夫する 創作文	作品の魅力や特徴が効果的に伝わるように、描写や展開などを工夫して書く。	10	短歌の世界	語句の意味や用い方に注意して、作品世界を味わうことができる。
				漢詩の世界	漢詩に描かれた情景を読み取り、古人の心情を捉える。

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
11	読書活動 本の帯・ポップづくり	選んだ本から適切な情報を得て、自分の考えをまとめる。	3	ポテト・スープが大好きな猫	登場人物の言動の意味を考え内容を理解することができる。
	異なる立場や考えを尊重して パネルディスカッション	集めた情報を整理し、話の構成に注意して、要点を捉えたり自分の考えと比べたりしながら聞く。		壁に残された伝言	発見された事実と、それを取材した筆者の思いがどのように書かれているかを読み取ることができる。
	表現プラザ① 「超訳」に挑戦	書きぶりや形式を工夫して、イメージや特徴が効果的に伝わるようにして書く。		ふるさとを見つめ直す 地域情報誌	目的に応じて会議を開き、互いの発言を検討して考えを広げる。 地域の特色や課題について、取材や調査などで集めた情報を検討し、文章にまとめる。
12	ことば発見 2	方言と共通語についての理解を深めることができる。			
	文法の窓 2 助詞・助動詞	言葉の特徴やきまり、漢字についての理解を深めることができる。			
	大阿蘇	構成や展開、描写の特徴を読み取ることができる。			
1	ことば発見 3	敬語の意味と種類についての理解を深め、状況や目的に応じた使い方ができる。			
	わかりやすく、心をこめて書く 手紙	相手や目的に応じて、事柄が正しくわかりやすく、気持ちが十分に伝わる書き方になるように推敲する。			
	習字【書初め】	日本の文化に親しむ。			
2	走れメロス	人物の語られ方の効果や意図を捉え、語り手の価値観を読み取り、それに対する自分の考えをもつ。			
	達人のことば	二つの文章を読み比べ、共通点と相違点を考えながら内容を読み取ることができる。			
	表現プラザ② 対話劇を体験しよう	対話劇とその振り返りの話し合いをとおして、話しことばの特徴やコミュニケーションについての考えを広げる。			
	動物園でできること	文章の全体と部分の関係や例示の効果などに注意して筆者の主張を読み取ることができる。			

第2学年社会科

1 学習のねらい	・社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会とは何かを考え、自覚をもって責任を果たそうとする態度を養う。 ・社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに、適切に表現する力を養う。 ・平素から各種の資料に親しみ、社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用する力を養う。 ・社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付け、公民としての基礎的教養を培う。		
2 評価の観点と 評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会とは何かを考え、自覚をもって責任を果たそうとする。	ノートへの復習やメモ、提出物・忘れ物、授業中の挙手、授業態度、定期テストでの社会的事象に対する関心を問う問題など
	②社会的な思考・判断・表現	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察する。また、社会の変化を踏まえ公正に判断するとともに、その追究や考察した過程や結果を適切に表現する。	単元レポート、思考・判断を必要とする発言、ノートやワークシートにおける考えや感想、調べたことや追究したことを表現する課題、定期テストでの思考・判断・表現を必要とする問題など
	③資料活用 の技能	平素から各種の資料に親しみ、社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用する。	地図・史料・グラフ・絵・パネル・表のよみとり、資料を活用する課題、定期テストでの資料活用問題など
	④社会的事象についての知識・理解	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。	小テストや定期テストでの社会的用語をチェックする問題など

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	鎌倉幕府	初の武家政権である鎌倉幕府の成立という、中世前期の特色を多面的・多角的に考察することができる。		日本の姿	地球儀や地図を活用して、地球表面上における日本の位置を経度や緯度、時差などからとらえるとともに、都道府県と地域構成の特徴を理解することができる。
	東アジア世界とのかかわりと社会の変動	鎌倉幕府の崩壊から南北朝の争乱、室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動という中世後期の歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。		世界と比べた日本の地域 的特色	日本の地域的特色を、世界の自然環境などの特色と比較することによって理解することができる。
	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	ヨーロッパ人の来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、生活文化の展開を通して、近世社会の基礎がつくられていったことを理解することができる。	7	九州地方	九州地方の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどに関連づけて多面的・多角的に追究するとともに、地形・気候・産業などの観点から考察を深め、今日的課題を公正に判断することができる。

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
8 9	中国・四国地方	中国・四国地方の地理的事象から課題を見いだし、それを環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に追究するとともに、他地域との結びつきや人口などの観点から考察を深め、今日的課題を公正に判断することができる。	10 11	欧米の進出と日本の開国	欧米諸国のアジアへの進出とその影響を理解し、近代国家・近代産業の発展とその中で国民生活の変化や近代文化の形成と大衆化から、様々な権利が勝ちとられてきた歴史と、それらの権利の大切さについて追究することができる。
	江戸幕府の成立と鎖国	江戸幕府の成立の諸政策、政治の行き詰まり、当時の対外関係のあらましを通して、歴史の流れと文化の特色を多面的・多角的に考察することができる。	11 12	東北・関東地方	東北・関東地方の地理的事象から課題を見いだし、それを環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に追究するとともに、地形・人口・エネルギーなどの観点から考察を深め、今日的課題を公正に判断することができる。
	産業の発達と幕府政治の動き	江戸中期・後期の幕府の政治と民衆の生活を理解するとともに、幕府の財政政策について調べたことから課題をみいだし、考察した過程や結果をもとに話しあい、幕府の改革の本質を追求することができる。	12 1	明治維新	新政府の諸改革や諸政策、文明開化を通して、人々の生活の大きな変化を多面的・多角的に考察し、当時の課題をみいだし公正に判断することができる。
	近畿地方	近畿地方の地理的事象から課題を見いだし、それを環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に追究するとともに、環境問題・環境保全などの観点から考察を深め、今日的課題を公正に判断することができる。	1 2	日清・日露戦争と近代産業	日清・日露戦争、条約改正について多面的・多角的に考察し、それらによって起こりうる課題を見つけ、公正に判断している。近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましに対する関心を高め、意欲的に追究することができる。
9 10	中部地方	中部地方の地理的事象から課題を見いだし、それを環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に追究するとともに気候・農業・工業などの観点から考察を深め、今日的課題を公正に判断することができる。	2 3	北海道地方	北海道地方の地理的事象から課題を見いだし、それを環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に追究するとともに、歴史的背景や農業の観点から考察を深め、今日的課題を公正に判断することができる。
			3	身近な地域の調	身近な地域を調べる手法として、地形図のよみとりや利用ができるとともに、自ら身近な地域の課題を見つけテーマを決め、調べ、まとめることができる。

第2学年数学科

1 学習のねらい	・式を、扱いやすい形に変えたり、見通しをもって効率的に扱えたりするようになる。 ・数量の関係を2つの文字を用いて等式に表し、これを用いて実際の問題を形式的・能率的に処理できるようになる。 ・変化や対応についての見方や考え方を一層深めるとともに、事象の中から一次関数を見いだし、これを用いることができるようにする。 ・図形の性質を調べる上で、基礎となる見方・考え方や基本的性質を明らかにし、論証の意義と推論の進め方について理解する。 ・平行線についての性質や三角形の合同条件を根拠にして、三角形、平行四辺形、それらを活用することができるようにする。また、これらを通じて、図形の論証に対して、興味・関心をもち、筋道を立てて考えようとする態度を身につける。 ・偶然事象の生起の程度を数値化する方法について考察し、確率の意味を理解する。また、簡単な場合について、確率を求めることができるようにする。		
2 評価の観点と 評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①数学への 関心・意 欲・態度	数学的な活動を通じて、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	授業での発言や活動の様子、提出物の内容やテストでの評価等から総合的に判断します。
	②数学的な 見方や考 え方	数学的な活動を通じて、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えている。また、理由・方法・事実の違いを意識して、見方や考え方が表現できる。	テストでの評価を基に、授業や提出物での発想やアイデア、自分の発見等の内容を加味し、総合的に判断します。
	③数学的な 技能	数学的な活動を通じて、事象を数学的に考察し、表現する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できる。	テストでの評価を基に、授業や提出物での計算の正確さや数学的表現の仕方が適切にできているかを総合的に判断します。
	④数量や図形な どについての 知識・理解	基本的な概念、原理、法則、用語、記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。	テストでの評価を基に、授業や提出物での学習した内容の理解の程度を加味し、総合的に判断します。

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つけたい力	月	教材名及び時間数	つけたい力
6	【式の計算】 ・式の加法，減法 ・いろいろな多項式の計算 ・単項式の乗法，除法 ・文字式の利用	・文字を用いた式に関するいろいろな用語の意味を理解し、それが正しく使えるようにする。 ・簡単な単項式，多項式での加法，減法，及び，単項式どうしの乗法，除法の計算ができるようにする。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明することを理解できるようにする。 ・目的に応じて簡単な等式を変形できるようにする。	7	【連立方程式】 ・連立方程式とその解	・2つの文字を含む等式から文字の値が求められることを知る。
			8	・連立方程式の解き方 ・連立方程式の利用	・連立二元一次方程式の必要性和意味、及びその解の意味を理解する。 ・連立二元一次方程式の解法を理解し、その解法に習熟する。 ・問題解決の場面で、連立二元一次方程式を活用することができるようにする。

9	【一次関数】 - 一次関数 - 一次関数の値の変化 - 一次関数のグラフ - 一次関数の式を求めること	- 一次関数の意味を理解し、身のまわりの事象の中から、一次関数とみられるものをみつけることができるようにする。 - 一次関数の特徴を理解し、一次関数のグラフがかけられるようにする。 - 直線が与えられているとき、その直線の式が求められるようにする。 - 一次関数のグラフと二元一次方程式のグラフとの関係や連立方程式の解とグラフとの関係を明らかにする。 - 具体的な事象を一次関数と見なし、それを問題解決に利用できるようにする。	1	【図形の性質と証明】 - 二等辺三角形 - 直角三角形の合同 - 平行四辺形の性質 - 平行四辺形になる条件 - 長方形、ひし形、正方形	- 三角形の合同条件を使って、二等辺三角形の性質を証明し、図形の性質の調べ方を理解する。 - 直角三角形の合同条件を導き、その使い方を理解する。 - 平行四辺形の性質や平行四辺形になる条件について理解する。 - 長方形、ひし形、正方形と平行四辺形の関係、平行線による等積変形などについて理解する。
10	- 方程式とグラフ - 連立方程式とグラフ - 一次関数の利用	- 一次関数のグラフと二元一次方程式のグラフとの関係や連立方程式の解とグラフとの関係を明らかにする。 - 具体的な事象を一次関数と見なし、それを問題解決に利用できるようにする。	2	- 平行線と面積 【確率】 - 起こりやすさと確率 - 確率の求め方 - いろいろな確率	- 確率の必要性和意味を理解し、簡単な場合について確率を求めることができるようにする。 - 確率を用いて不確定な事象をとらえ説明することができるようにする。
11	【図形の調べ方】 - 角と平行線 - 多角形の角 - 三角形の合同 - 証明とそのしくみ	- 対頂角の性質、平行線と角の関係について調べる。 - 三角形の内角の和について調べ、それらをもとにして多角形の角について調べる。 - 合同な図形の性質、三角形の合同条件などを明らかにする。 「証明」することの意義としくみについて理解する。 - 平行線や角の関係や三角形の合同条件を根拠にした証明の進め方、図形の性質の調べ方について理解する。	3	【箱ひげ図とデータの活用】 - 箱ひげ図 - データを活用して問題を解決しよう	- 箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味を理解する。 - 箱ひげ図を作成したり、四分位範囲を求めたりできるようにする。 - 箱ひげ図や四分位範囲を用いて、複数のデータの傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断できるようにする。
12	証明の進め方	「証明」することの意義としくみについて理解する。 - 平行線や角の関係や三角形の合同条件を根拠にした証明の進め方、図形の性質の調べ方について理解する。		来年度に向けて	1年間の復習や、来年度に向けての授業を、状況に応じて行います。

第2学年理科

1 学習のねらい	・生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また、動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。 ・電流回路についての観察、実験を通して、電流と電圧との関係及び電流の働きについて理解させるとともに、日常生活や社会と関連付けて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養う。 ・化学変化についての観察、実験を通して、化合、分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解させるとともに、これらの事物・現象を原子や分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方を養う。 ・身近な気象の観察、観測を通して、気象要素と天気の変化の関係を見いださせるとともに、気象現象についてそれが起こるしくみと規則性についての認識を深める。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①自然事象への関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を日常生活とのかかわりでみようとしているか。	授業中の活動（挙手、話し合い） 授業ノート・ワークシート・実験レポート（学習内容、感想や疑問の記述） 宿題（達成度）
	②科学的な思考・判断・表現	自然の事物・現象について、観察・実験を通して実証的、論理的に考えたり、分析したり、総合的に解決するとともに、その結果や過程を表現できるか。	授業中の活動（発言内容） 授業ノート・ワークシート・実験レポート（考察、考えた理由の記述） 定期テスト（「科学的な思考」の分野の達成度）
	③観察・実験の技能	観察・実験の操作を習得し、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけることができるか。	授業中の活動（観察・実験の取り組み） 実験レポート（正確な記録） パフォーマンステスト（正しい器具の扱い） 定期テスト（「観察・実験」の分野の達成度）
	④科学的な知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身につけているか。	授業中の活動（知識の理解度） 定期テスト（「知識・理解」の分野の達成度）

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	○化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 物質を表す記号 3章 さまざまな化学変化	物質の分解の実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質を推定することができる。 物質が原子や分子から成り立っていることを理解する。 化合物の組成を化学式で表すことができる。 2種類の物質を化合させる実験を行い、反応前とことなる物質が生成することを見いだす。 酸素との化合について、酸化と化合する化学変化について理解する。	7	4章 化学変化と物質の質量	還元の実験を行い、還元が酸化と逆の反応であることを理解し、酸化と還元が同時に起こっていることに気づく。 熱の出入りをともなう実験を行い、化学変化には熱の出入りが伴うことを見いだす。 質量保存の法則の実験を行い、化学変化の前後で物質の質量の総和が等しいこと、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。 金属と酸素が化合するときの金属と酸素の質量の関係を測定し、必要な情報をグラフに表し、量的関係の規則性に気づく。

8	○動物の生活と生物の進化 1章 生物の体と細胞	生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞でできていること、動物・植物細胞の特徴を見いだす。 生物には単細胞生物と多細胞生物があることを理解する。 多細胞生物が組織や器官を形成している個体であることを理解する。	1 2	3章 大気の動きと日本の四季	地球規模の大気の動きが緯度による温度差と関係している自然現象であることを理解し、その一部に偏西風があることを認識する。
	2章 生命を維持するはたらき	消化・呼吸・血液循環についての実験・観察を行い、その結果と、動物の体が必要な物質を取り入れ、運搬しているしくみを関連づけることができる。 不要になった物質を排出するしくみがあることを理解する。			大陸と海洋の温度差によっておこる大気の動きによって日本の気象が影響を受けていることを理解する。
	3章 感覚と運動のしくみ	動物が外界の刺激に適切に反応しているしくみを、感覚器官・運動器官・神経と関連づけることができる。			日本付近に盛衰する気団と関連づけて四季の特徴とそれが生じるしくみを理解する。
	4章 動物のなかま	脊椎動物の観察を行い、その観察記録に基づいて、体のつくりや呼吸方法・子の生まれ方などの生物の特徴を比較、整理することで、脊椎動物を分類することができる。 無脊椎動物の観察を行い、その観察記録にもとづいて、それらの生物の特徴を見いだすことができる。			
1 0			1	○電流の性質とその利用 1章 電流の性質	回路の性質や、電圧と電流との関係について規則性を見いだす。
			2	2章 電流の正体	実験器機の操作や実験結果の処理について技能を高める。 日常生活と関連づけながら、静電気の性質について調べることができる。 静電気と電流に関係があることを見だし、電流の正体が電子の流れであることを理解する。また、放射線の性質とその利用方法について知る。
1 1	○地球の大気と天気の変化 1章 空気中の水の変化	地球上の水がさまざまな状態で存在し、循環していることを認識する。 空気中の水の変化について理解する。 大気の動きを立体的にとらえ、天気との関係を見いだす。	3	3章 電流と磁界	電流の磁気作用や電流と磁界の相互作用を理解する。 直流と交流の違いをとらえる。
	2章 天気の変化と大気の動き	日本付近の気団や大気の動き方の規則性と関連づけながら天気の変化を捉えることができる。			

第2学年音楽科

1 学習のねらい	・仲間との学びあい学習を通して、音楽の表現能力を高めるようにする。 ・分散型学習を取り入れることにより、多種の教材を効率的に学習できるようにする。 ・混声三部の曲を通して、音楽に親しむことができるようにする。 ・文化祭で発表するクラス合唱を通して、音楽により親しみ、生活を明るく豊かなものにするよう努める。 ・西洋楽器に親しむことにより、多様な表現方法を学ぶことができるようにする。 ・我が国の伝統音楽を含め、多様な音楽を鑑賞することにより、様々な音楽に対する理解を深めるようにする。		
2 評価の観点と 評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①音楽への 関心・意 欲・態度	・音楽活動の喜びを味わっている。 ・音楽や音楽文化に関心をもっている。 ・主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	・音楽活動の参加の仕方、表現意欲（観察） ・実技テスト意欲（観察） ・提出物等や忘れ物の有無 ・課題学習（記録用紙）の内容 ・定期テストの一部内容
	②音楽表現 の創意工 夫	・音楽を形づくっている要素をわかろうとしている。 ・音楽を形づくっている要素の働きを感受している。 ・音楽表現を工夫し、その表現意図をもっている。	・提出プリントでの音楽要素の工夫 ・グループ練習（観察） ・実技テスト (アーティキュレーション) ・定期テストの一部内容
	③音楽表現 の技能	・創意工夫を活かした音楽表現を行うための技能を身につけている。また、その表現を創造的に表している。	・実技テスト (音量、リズム、音程、音色)
	④鑑賞の能 力	・音楽を形づくっている要素をわかろうとしている。また、それらの働きを感受しながら解釈したり、価値を考えたりして音楽に対する理解を深め、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	・提出プリント（鑑賞）での音楽要素を考えた工夫 ・グループでのコミュニケーション（観察） ・定期テスト

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	・楽典 ・フーガト短調 〔鑑賞〕 ・附中のハーモニー 自由曲〔鑑賞〕 ・課題曲 翼をください 〔譜読み〕	・既習事項の復習を重ね、音楽の知識を定着させることができる。 ・パイプオルガンの重厚な響きを味わい、音楽を形づくっている要素について知り、その面白さを感じ取ることができる。並行して音楽史を学んでいく。 ・候補曲を鑑賞し、クラスの代表曲として選曲できる。 ・曲にふさわしい速度や強弱記号を工夫して表現できる。 ・各パートの役割、声の音色や響き、発声について理解し、曲にあった音楽表現を試しながら、協働して作りあげることができる。	7	・楽器実技テスト アルトリコーダー ・創作① ・附中のハーモニー 自由曲〔合唱〕	・休校中の課題・練習の成果を個人で暗譜で発表する。 ・簡単なリズム楽譜と歌詞をつけて、短いフレーズを創作することができる。 ・曲との出会いを大切にして、初発の感想がもてる。自分の声に合ったパートの読譜に取りかかることができる。
			8	日本の郷土芸能	・日本各地に伝承されている郷土芸能を調べることで、興味を広げ、愛好する気持ちを持つことができる。
			9	・附中のハーモニー 自由曲〔合唱〕	・各パートの旋律を覚え独立して歌うことができる。 ・どのような表現がふさわしいのかを考えることができ、発信することができる

10	・附中のハーモニー自由曲及び課題曲〔合唱〕 課題曲・自由曲	・曲の背景に迫り、社会における音楽の意味や役割を考えることができる。 ・技術的な向上を図りながら、試行しながら曲想をつけることができる。 ・歌詞を熟読し、言葉の意味を理解し、旋律と歌詞の関連性に気づくことができる。 ・各パート練習を機能的に働かせ、自主的な取り組みができる。 ・独立して歌えると共に、仲間の声を聴き合い、バランスの取れた歌とはどのようなものか探求することができる。 ・練習の中で上手いいかないことの原因を考え、意見を出し合い聞き合いながら協働し、よりよいものを作ろうとする姿勢がもてる。 ・発声に工夫を凝らし、響きのある声を求めようとする。 ・構成を理解することによって、フレーズを感じた歌い方を体得し、諸記号の意味と効果を生かした表現を築くことができる。 ・指揮者と伴奏・合唱とが一つになる体験を通して合唱を愛好し、一体感を味わうことができる。	11	・交響曲第5番〔鑑賞〕	・曲想と音楽の構造との関わりを理解し、それらの働きが生み出す特徴を音楽から知覚することができる。 ・作曲家の背景を捉えながら楽曲と関連付けて感じることができる。
11	・歌唱実技テスト ・アルトリコーダー(中級②)	・自由曲を小編成にして発表会を行う。聴く側は審査員となり、聴き方の視点に合った聴取ができると共に、自分なりの視点を探することができる。 ・レパートリーを増やす。必要な奏法を選び、創意工夫を凝らして演奏することができる。	12	・ギター〔器楽〕 ・創作③ 1 ・日本の伝統音楽に親しもう③ ・歌舞伎と文楽 ・サントルチア〔斉唱〕 2 ・オペラ〔鑑賞〕 ・さよなら友よ、国歌、校歌 3 ・実技テスト ・沖縄音階と島唄〔ア・カペラ〕	・ギターの構造を理解するとともに、基本的な奏法を習得し、楽器に親しむことができる。 ・唱歌を使って曲を分析し、簡単な和声進行を学ぶ。 ・日本の伝統文化に触れ、親しむことができる。 ・外国の民謡に親しみ、外国語の語感を活かしたその特徴を感じ取って、声の響きや強弱に気をつけながら歌うことができる。 ・総合芸術としてのオペラの特徴を感じ取り、多様性を感じ取ることができる。 ・響きのある声で、旋律のまとまりを感じ、卒業式にふさわしい歌声で歌うことができる。 ・沖縄の伝統と歴史に触れ、島唄の楽曲を味わうことができる。

第2学年美術科

1 学習のねらい	- 主体的に美術の活動に取り組み、美術を深く理解し愛好しようとする心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 - 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。 - 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を高めるために、主体的に学習に取り組もうとする。	作品、鑑賞プリント、振り返りプリント及び、合評会の意見発表から、取組の質を読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
	②発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩の構成などの効果を生かし、心豊かで独創的な表現の構想を練っている。	作品・テスト、振り返りプリント及び、合評会の意見発表から、アイディアをいかに構築しているかを読み取り、評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
	③創造的な技能	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現の意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創意工夫して創造的に表している。	作品・テスト及び、合評会から、いかに自分の表現を追求しているかを読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。
	④鑑賞の能力	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。	鑑賞プリント・テスト及び、合評会の意見発表から、自分の見方や感じ方を大切にして、いかに作品を味わっているかを読み取り評価する。授業の様子を観察して、加点・減点する。

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	休校期間中課題合評会	- 美術の表現を積極的に行おうとする気持ちを育てる。 - テーマに基づき見る人が受ける印象を考慮しながら、形や色を整理し、単純化しつつ視覚的な効果を考え表現する創造的な力を高める。	6	「SDGs 啓発ポスター制作」	(コンクール作品) - 学校外の社会に向けて自分が啓発したいものを17の目標から一つ選び、標語を構想する。 - テーマに基づき自分なりに考えて発想することができる。 - 意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。 - 材料の持つ性質や特質をいかして構想す
				- 題材・テーマを決める - 標語を選ぶ - 既習のレタリングや表現方法を活用したラフスケッチ (材料も選ぶ) - 画用紙へ下描き(エスキース)	

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	・中間合評会 (鑑賞)	ることができる。	12		・既習の美術作品を観て、イメージを広げる。
7	・着彩	・お互いの作品を見合い。意見を聴きあう中で、自分の表現方法を見直し、より良い表現を構想する。			・参考資料を収集し、参考にしたり、独自の発想を取り入れたりして、デザインを構想する。
	完成作品合評会 (鑑賞)	・お互いの作品を発表して交流したり、実際に校内に掲示したりする中で作者の表現意図や工夫された点などを感じ取り、ビジュアルコミュニケーション能力を高める	1	・中間合評会 (鑑賞)	・経験的な鑑賞が身につくとなおよい。
8			2		・お互いの作品を見合い。意見を聴きあう中で、自分の表現方法を見直し、より良い表現を構想する。
9	(教育実習)			・形成	・材料に合った技法で制作に取り組む。
	東洋と西洋の美術作品の鑑賞	・東洋と西洋の文化に目を向ける。絵画・工芸・建築・ファッションなどがあらゆる視覚芸術において日本美術の影響を受けた時代があり、独自の表現へと展開していったことに興味をもつ。			・実際に材料を使っていろいろなことを感じる中で、既習の美術作品のよさにも気づく。
	・美術がつなぐ人と文化	・東西交流に関心を持ち、東洋美術のどのような点が西洋美術にインパクトを与えたのか、そこにどのような理由や背景があったのか考える。	3	・フォトフレームの場合、着色(ゴールド or シルバー)	・色と素材、あるいはツヤなどの要素も含めて考える。
	彫塑作品制作へ向けて	・目的や機能を考えてデザインや表現をする。		・磨き完成させる	
10	彫塑 (粘土フォトフレーム or 石彫デスククロック or 石彫レリーフ)	・、飾る目的や周囲の環境との調和などを考え、自分や周りの人が心地よく生活できるように、場の構成や装飾をについて考える。		・合評会 (鑑賞)	・友だちがどのような発想や構想を経て実際の制作をしたかを知る。
11					・自分の制作を振り返る。
12	黒粘土 or 滑石を使って、 <u>フォトフレーム or デスククロック or レリーフを作る</u>				
	・デザイン (資料を集める、ラフスケッチ)				

第2学年保健体育科（体育分野）

1 学習のねらい	(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①運動への関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また、個人生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	○行動観察（準備運動、準備、片付け、服装を含めた授業への取組） ○ワークシート等の提出記入状況 ○授業の出席状況
	②運動についての思考・判断	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	○行動観察（授業での課題解決のための動き、安全、話し合いなど） ○ワークシート等の提出記入状況 ○定期テストの問題
	③運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	○行動観察（技能の習得状況） ○記録会
	④運動についての知識・理解	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	○行動観察（授業における技能の知識、ルール） ○定期テストの問題（基礎・基本事項）

第2学年保健体育科（保健分野）

1 学習のねらい	「健康と環境」 (1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①健康・安全への関心・意欲・態度	健康と環境に関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	○授業への取り組み状況 健康と環境に関する資料の活用 課題解決に向けた意見交換など
	②健康・安全についての思考・判断	健康と環境について、課題の解決を目指して、既知の知識を活用した学習などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	○授業への取り組み状況 ○資料などで調べたことをもとに課題の解決方法を見つけ、かつ説明できる。また、筋道を立てて説明できるなど ○定期テストの問題
	④健康・安全についての知識・理解	身体对环境に対する適応能力や至適範囲、飲料水や空気の衛生、生活に伴う廃棄物の管理について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	○授業への取り組み状況およびレポートの内容 ○環境に対する身体への反応および環境の衛生管理について理解したことを言ったり、書いたりしているなど ○定期テストの問題

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	保健分野 (傷害の防止)	・傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。また、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	10	保健分野 (健康な生活と病気の予防)	・健康な生活と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	体づくり運動	・体づくり運動の楽しさや心地よさを味わうことができるよう。			・健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表し、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。
	集団行動	・安全で効率的な活動を行うために必要な態度や動作を養う。		球技Ⅰ	・球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。
	ダンス	・ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	11		・球技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。
7		・ダンスを豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。		器械運動	・器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。
		・ダンスの特性に応じて、交流ができるよう、イメージをとらえた表現や踊りをするための動きを身に付けている。	12		・器械運動を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。
		・ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解している。			・器械運動の特性に応じた技を身に付けている。
	体育理論 (スポーツの効果と安全)	・運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて感心をもち、学習に積極的に取り組もうとしている。	1	保健分野 (健康な生活と病気の予防)	・10月と同じ。
		・運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて、学習した知識を活用したり応用したりしている。		陸上競技Ⅱ	・9月と同じ。
		・運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて理解している。	2		
				剣道	・武道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。
9	水泳の心得	・水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。			・武道を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。
		・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。	3		・武道の特性に応じて、攻防を展開するための基本動作や基本となる技を身に付けている。
	陸上競技Ⅰ	・陸上競技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。		球技Ⅱ	・球技の特性に応じて、ゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。
		・陸上競技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。			・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。
		・陸上競技の特性に応じた、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けている。			
		・陸上競技の特性や成り立ち技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。			

第2学年技術科

1 学習のねらい	- 日常生活で使う機器が、どのようにエネルギー変換されて利用されているかを理解する。 - 電気機器などの製作を通して、エネルギー変換の方法や力の伝達のしくみを理解する。 - コンピュータやソフトウェアの機能を知り、基本操作ができる。 - 生物育成を通して、生産者への感謝や持続可能な社会をつくることの大切さを知る。 - 材料の加工に関する基礎的な技術を身につけ、機器や道具を有効に使い作品を作り上げる達成感を味わう。		
2 評価の観点と評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①生活や技術への関心・意欲・態度	授業や実習に意欲的に取り組むことができる。 授業で学習したことをノートやプリントに記述することができる。 計画された工程により作品を完成させることができる。	授業の様子 提出物(作品への取り組み) 授業プリント・ノート テスト
	②生活を工夫し創造する能力	製作をする上での課題に気づき、どうすればよりよいかを考え、工夫ができる。	授業の様子 提出物(作品の工夫) 授業プリント・テスト
	③生活の技能	加工に応じた適切な道具の使用ができる。部品を正確につくり、組み立てることができる。構想をきちんと図に表すことができる。はんだ付けがきちんと行うことができる。	作業の様子 提出物(作品の出来具合) 授業プリント・ノート テスト
	④生活や技術についての知識・理解	エネルギーの変換方法について正しく理解できる。部品の加工方法、機構を知ることができる。	テスト 授業の様子 授業プリント・ノート・テスト

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6 7	材料と加工に関する技術 ・エネルギー変換に関する技術 ・エネルギーの利用	自然界にあるエネルギーの利用方法を理解できる。電気エネルギーを光や熱に変換するためのしくみを理解できる。電気エネルギーを動力に変換するためのしくみを理解できる。	9 10 11	・機器の安全な利用 ・機器の保守点検 ・電気回路 ・機械部品 ・製作品の設計と製作 ・電子部品のはんだづけ	機器の手入れや事故防止の具体的な方法を身につける。電気機器の構成と回路図を用いた表し方を理解する。 エネルギー変換を利用した製作品の構想をまとめ、製作することができる。
6 7	・情報に関する技術	情報機器を正しい使用方法を知る。必要な情報を集めて加工し、アプリケーションソフトを用いて、表現することができる。	10	・生物育成に関する技術	プランターのような限られたスペースでも栽培可能な作物の種類を知る。作物の生育条件や環境条件が分かる。作物の生育に適切な手入れができる。
8 9	・二次エネルギー利用 ・エネルギーの変換と効率 ・運動を変化させるしくみ	機器の基本的な仕組みを知り、安全に使えるための保守点検と事故防止をすることができる。 エネルギー変換について理解し、エネルギーを有効に活用する方法を考える。電源の種類や特徴を知り、どのように使えば良いかを考える。	12 1 2	○材料と加工に関する技術 ・製品の工夫と技術の進歩 ・ものづくりの進め方 ・金属の特徴	・ものづくりのすすめかたについて知る。 ・身の回りの製品に使われている金属材料の特徴と利用方法を知る。 金属を用いた製作品を設計し、製作する。 製作を通して、ものづくりの大変さや楽しさ、達成感を味わう。
			3	・社会・環境とのかかわり	地球環境の保護の観点から、循環型社会の必要性を理解する。

第2学年家庭科

1 学習のねらい	○(家庭分野全体のねらい) 個人及び家族の発達と生活の営みを総合的に捉えて、日々の生活活動の中で、生活の主体者として自立するとともに、家族をはじめとする他者とともに、生活課題の改善や解決に取り組む実践力をもち、明日の生活環境・文化をつくることのできる資質・能力を育む。 ○(本学年のねらい) ・自分の食生活に関心をもち、その振り返りを通して食事が果たす役割や健康に良い食習慣について考えることができる。 ・栄養素の種類と働きを知り、中学生にとって必要な栄養の特徴について考えるとともに、それを日常食の献立づくりや用途に応じた食品の選択、基礎的な日常食の調理にいかすことができる。 ・消費者としての自覚を高め、よりよい消費生活について考えることができる。 ・自分や家族の消費行動が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活をの工夫を考えることができる。		
2 評価の観点と 評価の方法	評価の観点		評価の方法
	① 生活や技術 への関心・ 意欲・態度	・調理に関心をもち、献立作りや調理実習等に意欲的に取り組もうとしている。 ・自らの生活の振り返りから見出される食生活及び住生活をより豊かにするための生活課題に対し、その解決に向けて、意欲的に取り組もうとしている。 ・自分の食生活に関心をもち、健康に良い食習慣づくりに努めようとしている。 ・自分や家族の消費生活に関心をもち、よりよい消費生活に向けて、意欲的に取り組もうとしている。	○様相観察：準備物、授業への取り組み ○プリント等の記入内容状況 ○出席状況
	② 生活を工夫 し創造する 能力	・基礎的な日常食を調理するにあたり、段取りを考えたり、食品の調理上の性質を生かしたりすることができる。 ・自らの生活の振り返りから見出される食生活をより豊かにするための生活課題に対し、その解決に向けて工夫している。 ・課題解決のために自ら考え取り組んだことを様々な形でわかりやすく表現している。	○様相観察：課題解決のための取り組み、グループでの取り組み、発表時の様子等 ○プリント等の記入内容状況 ○作品：課題レポート
	③ 生活の技能	・調理の目的や食材に合った基本的な調理及び食品や調理道具等の適切な管理ができる。 ・自らの生活の振り返りから見出される食生活をより豊かにするための生活課題に対し、その解決のための技能を身につけている。 ・商品の適切な選択をするための技能を身につけている。	○様相観察：各活動場面における技能の習得状況 ○技能テスト ○作品：課題レポート
	④ 生活や技術 についての 知識・理解	・食品の調理上の性質及び食品や調理道具の安全と衛生に留意した取り扱い方について理解している。 ・販売方法や支払い方法、契約について理解している。 ・自らの生活の振り返りから見出される食生活をより豊かにするための生活課題に対し、解決につながる知識を身につけている。	○様相観察：各活動場面における知識の習得状況 ○定期テスト

3 指導計画

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
6	・生鮮食品と加工食品の特徴を知ろう ・食品の選択と購入について考えよう ・食品の保存と食中毒の防止について考えよう	・生鮮食品と加工食品の特徴について理解する。 ・身近な食品の品質を見分ける。 ・用途に応じて食品を適切に選択する。 ・食品を適切な方法で保存する。 ・食中毒の防止について考える。	1	・消費者としての自覚をもとう ・販売方法と支払方法について知ろう ・商品の選択と購入について考えよう ・消費者の権利と責任を知ろう ・合同授業	・自分や家族の消費生活を振り返る。 ・契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法の特徴を知る。 ・商品の適切な選択、購入、活用について考える。 ・消費者の権利と責任について理解する。 ・おいしいみそ汁を調理するために、アドバイスができる。 ・安全面、衛生面、環境面に配慮して調理することができる。
7	・「私たちの食生活」の課題と実践 - 地域の食文化 - 食に関するエネルギー環境問題	・食生活をよりよくするための課題を見出す。 ・課題解決のための計画を工夫する。 ・課題に関心を持ち意欲的に取り組む。 ・言葉や図表概念等を用いて発表する。 ・地域の食文化について理解する。 ・資源・環境と食生活との関係について理解する。	2	・消費者トラブルを解決する方法を知ろう ・よりよい消費者生活をめざして	・自分や家族にとって身近な消費者トラブルの事例とその解決方法を知る。 ・消費者としての自覚を高め、よりよい消費生活について考えることができる。
9	・日常食の調理をしよう - 肉料理 - 魚料理	・日常食の調理に関心をもち基礎的な調理技術を習得しようとする。 ・段取りや食品の調理上の性質を生かした調理を工夫する。 ・調理の目的や食品の特性を生かした基礎的な調理ができる。	3	・生活と環境とのかかわりについて考えよう	・自分や家族の消費行動が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫する。
10	- 野菜料理 - だしをとる	・食品の調理上の性質、加熱調理と調味の性質、食品や調理道具等の安全で衛生的な取り扱い方について理解する。			
11	煮込み料理				
12	実技テスト（包丁で皮むき）				

第2学年英語科

1 学習のねらい	・外国や言語・文化に対する理解を深めるとともに、英語を用いコミュニケーションを積極的にはかろうとする態度を身につける。 ・英語を聞いて話し手の考えや情報、英文の内容を理解する能力を身につける。 ・自分の気持ちや考え、身近な話題について、英語を用いて話す力を身につける。 ・英文を読んで書き手の考えや英文の内容を理解する力を身につける。 ・英語を用いて自分の考えや身近な話題について書く力を身につける。 ・英語を通じて自国の伝統文化についても興味を持ち、英語で紹介する力を身につける。		
2 評価の観点と 評価の方法	評価の観点		評価の方法
	①コミュニケーションに対する意欲・関心・態度	言語や文化に対する知識や伝達能力を高めるとともに、コミュニケーション活動に対し意欲・関心をもって参加することができる。	ALT との授業やコミュニケーション活動を含めた授業での取組の姿勢・発言・発表およびその内容、予習・復習・提出物の内容・完成度など
	②表現の能力	既習事項および新出事項を用いて、自分の考えや気持ち、情報など伝えたいことを話したり書いたりして表現することができる。また、発音やイントネーションを正しく理解し、声の大きさやジェスチャーを工夫する等、伝達するためのスキルが習得できる。	テスト（定期テストや音読テストなど）、英作文・スピーチ・スキット、ALT との会話テストなどのパフォーマンス課題など
	③理解の能力	英語を聞いたり、読んだりして、話し手や書き手の意図や内容など、相手が伝えようとすることを正しく理解することができる。	テスト（定期テストやリスニングテスト、単元テストなど）、授業での質疑応答や取組など
	④言語・文化に関する知識・理解	英語の学習を通して言語やその使い方についての知識を身につけるとともに、さまざまな国の文化について学んだり、自国文化について認識を深めたりすることができる。	テスト（定期テストや単語テスト、単元テストなど）、調べ学習、授業での取組、など

3 指導計画（教材名および時間数で、（ ）内の数字は時間数を表す）

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
	LESSON 1 Aloha!	○一般動詞の過去形について理解し、使うことができる（復習）。 ○英語を通して、ハワイの伝統文化について知る。 ○会話の中で相手に質問したり、つなぎ言葉や相づちを用いたりして、会話を続けることができる。		Let' s talk 2 (1) もし雨が降ったら LESSON 3 (16) The Ogasawara Islands	○If を用いて条件や仮定を英語で表現できる。 ○未来を表す表現（will、be going to）や接続詞 that について理解し、使うことができる。 ○英語を通して、地球環境について考える。
	Let' s Talk 1 道案内をしよう	○英語で交通手段を尋ねたり、説明したりすることができる。		Let' s Listen 2 (1) 世界の天気予報	○英語でのアンケートの回答を書くことができる。 ○天気予報の内容を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。
	LESSON 2 Peter Rabbit	○be 動詞の過去形、接続詞 when および過去進行形を理解し使うことができる。		Let' s talk 3(1) 避難訓練	○must, must not を使って、しなければならないこと、してはいけないことを説明することができる。
5	Lesson1, 2 の確認(1)	○Peter Rabbit の物語を読み、あらすじを書き、話すことができる。		Project 1 (2) 有名人を紹介しよう	○有名人のプロフィールを紹介するポスターを作ることができる。
6	Let' s Listen 1 (1) テレビニュース	○テレビニュースの全体的な内容を聞き取る。			

月	教材名及び時間数	つきたい力	月	教材名及び時間数	つきたい力
7	LESSON 4 (13) Enjoy Sushi	○There is[are] ～ . や動名詞を理解し、使うことができる。 ○英語を通して、日本の各地域の食文化について関心を高める。 ○相手の言ったことを確認して会話を広げることができる。 ○観光案内所での会話を聞き、話し手が伝えたいことを聞き取ることができる。		Let' s Listen 5 (1) 留守番電話のメッセージ	○留守番電話で使われる表現を知り、内容を理解できる。
	Let' s Listen 3(1) 観光案内	○have to … . を用いて、しなければならないことを英語で説明できる。 ○間をつなぐときの英語表現を使うことができる。 ○とんち話を英語で読み、理解できる。 ○登場人物らしく会話を音読することができる。		Let' s talk 6 (1) 電話しよう	○Will you …, please?を用いて、依頼をするときや承諾するときの英語表現を使うことができる。
8	Let' s talk 4 (1) 宿題は何？	○間をつなぐときの英語表現を使うことができる。 ○とんち話を英語で読み、理解できる。 ○登場人物らしく会話を音読することができる。	11	Project 2 (2) 自分の夢を紹介しよう	○将来の夢ややりたいことについて英語でスピーチをすることができる。
	LET' S READ 1 A Pot of Poison	○動詞+A+B、動詞+Aを理解し、使うことができる。 ○英語を通して、旅の楽しさと、地域文化を尊重することについて考えることができる。 ○好きな国についてエッセイを書くことができる。		LESSON 7 (15) Good Presentations	○比較級、最上級を理解し、使うことができる。 ○通信手段の人気度を調べた調査結果を読み内容を整理できる。 ○クラスで人気のあるものについて調査し、英語で発表することができる。 ○プレゼンテーションの内容を聞き取る。
9	LESSON 5 (12) Uluru	○空港でのアナウンスを聞き、情報を聞き取ることができる。 ○May I …?を用いて、許可を求める英語表現を使うことができる。 ○承諾したり、食べ物を勧めたりするときの表現を使うことができる。 ○不定詞を理解し、使うことができる。 ○英語を通して、他者の将来の夢に触れ、自分の将来像について考える。 ○職場体験先に自己紹介の手紙を作ることができる。	12	Let' s Listen 6 (1) 新作のロボットのプレゼンテーション	○受け身形を理解し、使うことができる。 ○英語を通して、多言語の国や人・ことば・社会の結びつきについて関心を高める。 ○英語でのメールの書き方を知り、メール形式で内容を相手に伝えることができる。
	Let' s Listen 4 (1) 空港・機内のアナウンス		1	We' re Talking 7 (2) 買い物しよう	○It' s too～を用いて「～すぎる」という苦情を言うときの英語表現を使うことができる。
	Let' s talk 5 (2) もっといただけますか		2	Project 3 (2) 自分の町を紹介しよう	○メール形式で自分の町の紹介をすることができる。 ○自伝を英語で読み、理解できる。 ○内容が伝わるように自伝を音読することができる。
10	LESSON 6 (14) My Dream		3	LET' S READ 2 (6) Landmines and Aki Ra	

現在の学習指導要領に準拠した通信表について

三重大学教育学部附属中学校

★通信表について

本校では、学期ごとに作成し、年間3枚を配付しています。1学期には1学期分のみが印字され、2学期には1学期のデータに加え2学期のデータを追加印字した新しい通信表をわたします。新学期になってから通信表を集めませんので、御家庭に通信表がいつも手元にあって、いつでも見られ、生徒・保護者が自分の状況を振り返ることができるようにしています。

学 習 の 記 録

教科	観 点	1 学期		2 学期		学 年 末	
		評価	評 定	評価	評 定	評価	評 定
国語	国語への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
社会	言語についての知識・理解・技能						
	社会的事象への関心・意欲・態度						
	社会的な思考・判断・表現						
	資料活用・技能						
数学	社会的事象への知識・理解						
	数学への関心・意欲・態度						
	数学的な見方や考え方						
	数学的な技能						
理科	数量や図形などについての知識・理解						
	自然事象への関心・意欲・態度						
	科学的な思考・表現						
	観察・実験の技能						
音楽	自然事象についての知識・理解						
	音楽への関心・意欲・態度						
	音楽表現の創意工夫						
	音楽表現の技能						
美術	鑑賞の能力						
	美術への関心・意欲・態度						
	発想や構想の能力						
	創造的な表現						

各教科の「観点」に記載されている項目です。

3 年 E 組

特 別 活 動 等 の 記 録

前	
生徒会	
学 級	
部活動	
	1 学期

評価(ABC), 評定(12345)について、表示する順序を、学期別に整理しています。

★学習評価(成績のつけ方)とシラバスについて

学習評価(成績)のつけ方

- ①目標に準拠した絶対評価をすること。
- ②各教科の観点をABCで評価し、総合的判断として12345の評定を決めること。
- ③1・2学期の評価・評定を元に、3学期の状況を勘案して、1年間を総合した評価・評定を決めること。

学習指導要領に示された基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度の育成について、バランスよく確実に身に付けさせるよう工夫改善を進めます。

そのひとつとして、シラバスを作成し、生徒に学習の進め方や内容等について説明します。これに基づき、各教科の目標に準拠して評価をします。単にABCを、1～5を付けていく作業ではなく、成績を付けたことにより、生徒一人一人について、今後どんな学習改善や指導が必要なのか等、学習支援を進める契機としていきます。

学習評価の改善に関する

基本的な考え方(文部科学省)

- ①きめ細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、「目標に準拠した評価」を引き続き着実に実施すること。
- ②新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。
- ③学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

学習状況により評価や評定の到達ラインを適切に定めます。

本校では「◇%以上はA」、「△点以上はA」等と、固定しません。たとえば、「ある計算」を6月中旬に学習したと仮定します。2学期に「この計算」をもとに新しい学習を進めていく場合、2学期に成績をつけるときには、◇や△はかなり高い数値になります。「この計算」は、初めて学んだときに比べて、練習もしっかりこなし、十分に定着していると判断するからです。

しかし、「この計算」の成績を1学期につける場合には、まだ学習したばかりなので、徐々に定着していけばよいと判断して、◇や△は低めの数値になります。計算方法や原理は学んだけれど、それを活用してしっかりと身に付けるところまでには時間的に経験が少ないと判断するからです。

このように、学習状況に応じて、到達ラインの設定を変えることで、生徒の確かな学力の定着に活かします。既習内容なのですぐに満点をめざすことも大切ですが、失敗を繰り返したり、自分でじっくりと学習を進めたりして、少しずつ自分の力に変えていく、そのような「安心して学べる」視点から、生徒の学習を支援していきます。

生徒一人一人の強み・弱みを明確にします。

太郎さんはA A A Bで5，花子さんはA A A Aで4がつきました。

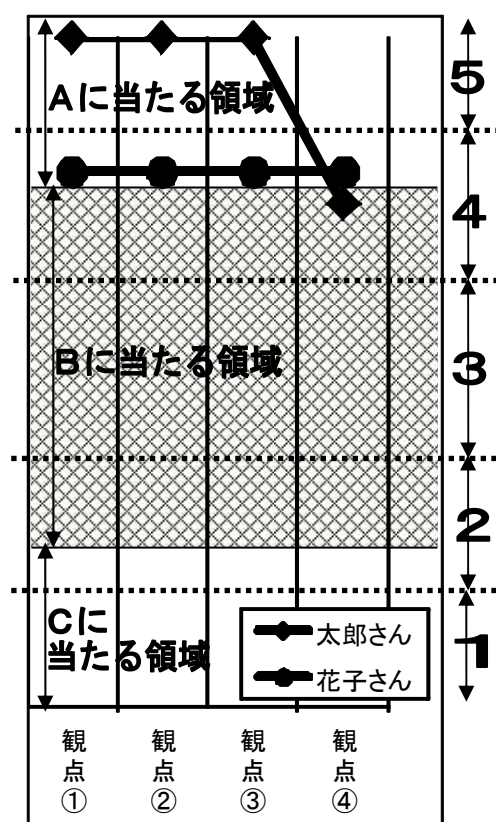
右図を見てください。3段階評価のA B Cには、幅があります。例えば、Aといっても、「堂々のA」と「Bとの境界のA」があるため、すべてが「Bとの境界のA」を取った花子さんはオールAですが、総合的な評定は4がつきます。また、「堂々のA」を3つ、「Aとの境界のB」を1つ取った太郎さんはA A A Bですが、総合的な評定は5がつきます。

見かけ上は、A A A AとA A A Bでは、A A A Aの方がよく見えますが、具体的にA B Cの内容や状況にまで踏み込み、生徒一人一人の強み・弱みを明確にしていきます。

花子さん(A A A A，4)には、「どの観点もBとの境界ギリギリのAの状況であるため、Aに満足(安心)しないで、がんばっていきましょう」というメッセージを三者面談等で伝えます。

太郎さん(A A A B，5)には、「観点①②③についてはほとんど完璧に仕上がっているけれど、観点④についてしっかりとがんばっていきましょう」というメッセージを伝えます。

もちろん、教科担任からのこれらのメッセージは、学級担任を通じて生徒・保護者へ、直接教科担任から生徒へ、それぞれ伝えられます。単に、A B Cのうちどんな記号がついたかに一喜一憂するのではなく、みなさんはA B Cの状況を知るとともに、教師は今後の学習の改善につながるよう指導・支援を進めます。



※上図は、説明を簡単にするために、単純化したイメージ図です。各単元・領域によって到達度(A B Cの境界)は変わりますので、一律に境界値を示すことはできません。実際には到達度に関する生徒一人一人のデータやその境界値は、学習指導要領に準拠し、シラバスに基づいて算出しています。また、学習内容や学習状況によって、各観点のバランスやウエイトなど、各教科において適切に設定しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



年 組 席

名前